

ラジオNIKKEI

マルホ皮膚科セミナー

2019年7月1日放送

「第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ①

大会を終えて」

近畿大学 皮膚科
教授 川田 暁

大阪での中部支部学会

皆さん、こんにちは。近畿大学医学部皮膚科の川田でございます。昨年、私は会長として、第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会を開催させていただきました。本日はこの学術大会について紹介させていただきます。

日程は平成30年10月27日土曜日と28日日曜日の2日間でした。また会場は大阪市中之島の、大阪国際会議場でした。日本皮膚科学会中部支部学術大会は、近畿大医学部皮膚科では前教授の手塚 正先生が第33回を、1982年に大阪で主催されました。近畿大学医学部皮膚科としては今回が2回目の担当となり、とても光栄に存じます。

学会のテーマ

今回の学会テーマは「皮膚科の本態に光をあてる!」に決めました。私の専門分野の1つとして光生物学があります。その他の専門として「乾癬の紫外線治療」や「レーザー治療」があります。私はこのようにして、皮膚科領域における「光」という分野に長年関わってきました。

一方、近年皮膚科領域では種々の病態が解明されると同時に、次々と新しい治療法が開発されてきました。例えば乾癬やアトピー性皮膚炎の病態における種々のサイトカイ



ンの関与と生物学的製剤の開発、悪性黒色腫における免疫チェックポイント阻害薬、B-RAF阻害薬、MEK阻害薬などの開発と臨床応用が挙げられます。このように病態と治療が密接に関連している皮膚科の現状に注目して、そこを明らかにしたい、つまり光をあてたいと考えました。

ポスターやプログラム・抄録集のデザインも、紅葉に囲まれた大阪城に太陽光が燦々とさしているものとししました。

特別講演

特別講演は2つ企画しました。まず近畿大免疫学の宮澤正顯先生に、「エピトープ特異性によるCD4陽性エフェクターT細胞機能の制御と抗腫瘍免疫」という演題名で講演していただきました。レトロウィルス誘発腫瘍モデルにおいての、発癌制御に有効な宿主免疫反応について紹介していただきました。

次に名古屋市大免疫学の山崎小百合先生に、「紫外線で誘導される樹状細胞と制御性T細胞のクロストークによる免疫制御」という演題名で講演していただきました。紫外線照射後の皮膚の樹状細胞のサブセットを解析し、それらが免疫寛容に関する遺伝子を強く発現しており、その結果制御性T細胞を誘導することを示していただきました。どちらの講演内容も免疫学の最先端のものであり、かつ皮膚科にも応用できる内容であり、とても貴重な機会であったと思います。

シンポジウム

シンポジウムは通常のを5つ、スポンサードシンポジウムを3つ企画しました。まず学会テーマに沿って「光皮膚科再び」と「紫外線治療のトピックス」というシンポジウムを行いました。「光皮膚科再び」では、(1)私自身による、光皮膚科におけるUV-ABClub、(2)大阪医大の森脇真一先生による、色素性乾皮症研究50年の歩み、(3)弘前大の中野創先生による、皮膚ポルフィリン症：未来への展望、(4)関西医大の上津直子先生による、日光蕁麻疹—その多様性とこれから、(5)浜松医大の戸倉新樹先生による、薬剤性光線過敏症、(6)神戸大の錦織千佳子先生による、フォトダーマトロジー学会—光皮膚科学のあゆみ、の6つのセッションから構成されていました。日本の皮膚科領域における光皮膚科の歴史と今後の展望、各種光線過敏症の研究の進歩を理解することができました。

そして「紫外線治療のトピックス」では、(1)ナローバンドUVBの基本と今後の発展(名古屋市大の森田明理先生)、(2)ターゲット型光線治療の効果的活用法(金沢赤十字病院川原繁先生)、(3)乾癬の光線療法ガイドラインについて(慈恵医大第三病院の伊藤寿啓先生)、の3つのセッションが発表されました。現在の皮膚科における紫外線治療についての今までの進歩と今後の展望が確認できました。

「基礎研究の最新の話—皮膚研究は拓く、皮膚科の未来」では、(1)白斑の分子生物学(近畿大の大磯直毅先生)、(2)イノシトールリン脂質代謝による表皮角化細胞の機能制御(東

京薬科大の中村由和先生)、(3)稀少疾患の解析から未知なる皮膚を探る(慶應大の久保亮治先生)、(4)皮膚の上皮-間充織相互作用(理化学研究所の藤原裕展先生)、(5)アトピー性皮膚炎と乾癬の痒みのメカニズム(京都大の大塚篤司先生)、の5つの講演がありました。

「乾癬国際ワークショップ 乾癬治療から医療経済を考える」では、東海大の馬淵智生先生には日本の、Korea 大学の Hae Jun Song 先生には韓国の、台湾 Adventist 病院の Dino Thai 先生には台湾の、それぞれの国における乾癬治療をまとめていただき、医療経済の実情を紹介していただきました。

「皮膚科にできるアンチエイジング」では、近畿大奈良病院の山田秀和先生に「見た目のアンチエイジングを考える」を、順天堂浦安病院の須賀 康先生に「美容皮膚科レーザー治療: その理論と発展について」、を講演していただき、最先端のアンチエイジングの実際を紹介していただきました。

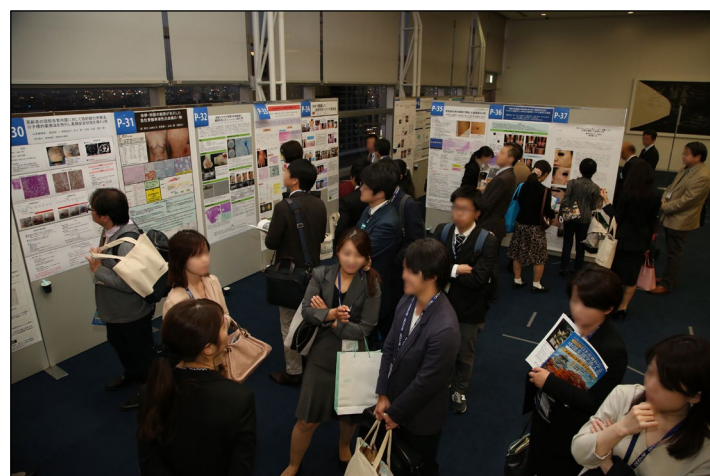
教育講演

教育講演は5つ企画しました。「痒疹を考えるー改訂診療ガイドラインについて」(防衛医大の佐藤貴浩先生)、「掌蹠膿疱症の臨床に強くなるために」(福島医大の山本俊幸先生)、「よくわかるサルコイドーシス診療」(関西医大の岡本祐之先生)、「皮膚科の日常診療におけるアレルギーのピットフォール」(島根大の千貫祐子先生)、「病理の基礎を勉強しよう!」(近畿大の柳原茂人先生、熊本大の宮下 梓先生)です。いずれも臨床や専門医試験につながるものとして評判を呼び、どの会場でも多くの方々に参加していただき、とても盛況でした。



一般演題

一般演題には中部支部のみならず、他の支部の方々からも多数申し込んでいただきました。口演は133題、ポスターは46題、応募いただきました。内容も多彩かつ学術的にもレベルの高いものばかりでした。また各会場において、活発な討論がありました。



懇親会とスイーツ

懇親会ではカリフォルニアのワインをセレクトしました。ワイナリーが多くて有名な Napa と Sonoma の、ロゼ・白・赤で計 12 種類を用意しました。参加した方々にテイastingを楽しんでいただきました。

さらにスイーツはコーヒーコーナーの横に、関西地方の和菓子と洋菓子を 13 種類用意して、皆様に食べていただきました。



おわりに

参加していただいた方は 2 日間を通じて約 1,700 名でした。大きなアクシデントもなく、無事に全てのプログラムを終えることができました。これも、山田紀子さんを始めとした日本皮膚科学会の学術チームの皆様、近畿大学医学部皮膚科の医局員の方々のおかげであります。また学会運営に対して、多大な協賛をしていただいた近畿大学医学部皮膚科の OB や各メーカーの方々、皆様方に深謝申し上げます。